

令和7年度 元石川高等学校 不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
① 法令遵守意識の向上	職員行動指針の遵守し、公務員としての自覚を持った行動の徹底。	「職員行動指針」等に基づき、県職員・教育公務員として求められる姿勢を確認した上で、職員一人ひとりが、生徒、保護者や県民の期待と信頼に応えることができるよう取り組んだ。毎月の職員会議後の研修で県の資料や記者発表資料を活用し自ら点検を行い、結果を共有することで信用失墜行動の防止につなげた。
②職場のハラスメントの防止	パワハラ・セクハラ・マタハラ等の未然防止。	人権研修や啓発資料等を活用した情報共有、セルフチェックを実施し、職員の声を生かしながらハラスメントのない風通しのよい職場づくりを行った。 生徒・保護者・県民の声に対しては教職員・管理職が丁寧に対応し、記録を残して共有を図った。
③生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	生徒の人権尊重。わいせつ・セクハラ行為の未然防止。	管理職による面談や日常的な声掛け等を行い、生徒の連絡先の管理方法などルールを徹底し、セクハラ・わいせつ行為の防止につなげた。教職員が加害者に絶対にならないように、生徒とのSNS等の利用禁止の徹底、classroomでの生徒とのやりとりを含めたルールについて、周知を徹底した。
④体罰・不適切な指導の防止	生徒理解に基づく指導の推進。体罰、不適切指導の未然防止。	啓発資料、研修資料等を活用して研修を行い、背景まで踏まえて生徒を理解できるよう努め、職員が相互に気づきを共有して、人権を尊重する姿勢を身に付けられるよう取り組んだ。 「校内人権窓口」の周知や教育相談週間の面談やサポートドックの活用を含めて、生徒が抱える様々な課題について、より相談しやすい環境を整えた。
⑤入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る点検体制の確立、確実な業務遂行。	成績処理、調査書・進路関係書類の発行にあたっては、マニュアルを理解した上で業務を進めるよう、確認・点検を徹底した。さらに誤りが生じやすい箇所については適宜マニュアルの見直しを行った。 入学者選抜業務については、計画的に複数の校内研修会を行い、事故の未然防止に努めた。
⑥個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	生徒の個人情報の管理及び情報セキュリティ対策の徹底。	電子情報を含めた個人情報等の管理について、ルールを再提示して確認させ、流出や漏えいの防止を徹底した。個人情報の校外持ち出しは研修旅行等限られた場面だけとし、欠席者への答案返却のルールも周知され、職員の規範意識も高まった。

⑦交通事故防止、酒酔い・酒気帯運の防止、交通法規の遵守	酒酔い・酒気帯び運転禁止の徹底、交通法規の遵守。	交通事故、飲酒運転の根絶に向けて、啓発資料等を活用して研修会を行い、飲酒をした場合の翌日への影響なども具体的に示して、注意を喚起した。交通事故ゼロの達成に向けて、次年度もさらに職員の意識向上を図っていく。
⑧業務執行体制の確保等	教科及びグループ業務の情報共有、業務体制の推進。	職員が気になることを共有し、管理職への「報・連・相」を行いながら、業務を改善していく姿勢が形成されてきている。今後も不祥事等の情報を自分事としてとらえ、生徒・保護者・地域に目を向けて業務を進められる協働的な態勢を整えていく。
⑨財務事務等の適正執行	財務事務等の適正執行及び不適切経理処理の防止。	特に私費会計の業務について、私費会計基準に則った執行方法を職員会議などの場で繰り返し確認し、執行体制を整備して職員の負担感を軽減し、不適正な執行を未然に防止した。

○ 令和7年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和8年度に取り組むべき課題
(学校長意見)

教育公務員として、自校・他所属で起きる様々な事故・不祥事を「自分事」として捉え、不適切な事案や不祥事に繋がるような事象を絶対に起こさない職場をめざし取り組んできた。職員全体にも時機を逃さず、意識啓発・注意喚起を行い、不祥事ゼロに向けた行動を促してきた。

令和7年度において、個人情報に係る事故が発生してしまったことは誠に残念であるが、職場の態勢を整え、職員の意識を啓発し、細部に至る見直しを孜孜として進めている。

令和8年度に向けて今年度の目標達成状況を踏まえた上で、職員一人ひとりがより高い意識をもち、事故・不祥事ゼロを実現していく。

働き方改革も、職員のさらなるウェルビーイングを目指して、引き続き取組みを進めていきたい。